

平成30年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	愛媛県		市町村類型	Ⅲ-1	指定団体等の指定状況		区分		平成30年度(千円)	平成29年度(千円)	区分		平成30年度(千円・%)	平成29年度(千円・%)		
					財政健全化等	×	歳入総額	平成30年度(千円)			平成29年度(千円)	実質収支比率				
市町村名	西条市		地方交付税種地	1-3	財源超過	×	歳入総額	51,504,049	51,247,148	実質収支比率	9.1	7.2				
					首都	×	歳出総額	48,934,947	49,134,436	経常収支比率	89.8	87.8				
					近畿	×	歳入歳出差引	2,569,102	2,112,712	(※1)	(96.0)	(94.1)				
					中部	×	翌年度に繰越すべき財源	93,904	192,664	標準財政規模	27,259,431	26,824,263				
					過疎	×	実質収支	2,475,198	1,920,048	財政力指数	0.69	0.69				
人口	27年国調(人)	108,174	産業構造(※5)		中部	×	単年度収支	555,150	-115,084	公債費負担比率	12.1	11.9				
	22年国調(人)	112,091			過疎	×	積立金	1,074,424	876,565	健全化判断比率						
	増減率(%)	-3.5			山振	○	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-				
住民基本台帳人口(※7)	31.01.01(人)	109,681	第1次	27年国調	22年国調	低開発	×	積立金取崩し額	1,850,000	1,700,000	連結実質赤字比率	-	-			
	うち日本人(人)	108,382		3,811	4,240	指数表選定	○	実質単年度収支	-220,426	-938,519	実質公債費比率	6.8	7.2			
	30.01.01(人)	110,767	第2次					基準財政収入額	14,206,311	13,771,376	資金不足比率(※4)					
	うち日本人(人)	109,435		16,186	16,891			基準財政需要額	20,873,676	20,333,360						
	増減率(%)	-1.0		32.5	33.3			標準税収入額等	18,216,317	17,654,940						
	うち日本人(%)	-1.0	第3次	29,752	29,559			経常経費充当一般財源等	24,718,096	24,238,601						
面積(km ²)	510.02	59.8		58.3			歳入一般財源等	32,893,690	33,036,213							
人口密度(人/km ²)	212															
世帯数(世帯)	44,595															
職員の状況																
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	56,499,892	52,403,344					
	市区町村長	1	9,130	一般職員等(※6)	一般職員	869	2,569,633	2,957	うち公的資金	40,870,549	39,487,503					
	副市区町村長	2	7,210		うち消防職員	154	420,574	2,731	債務負担行為額(支出予定額)	7,095,907	4,769,519					
	教育長	1	6,020		うち技能労務職員	49	138,817	2,833	収益事業収入	-	-					
	議会議長	1	4,560		教育公務員	20	65,928	3,296	土地開発基金現在高	1,549,735	1,549,494					
	議会副議長	1	3,930		臨時職員	-	-	-	積立金現在高	5,060,153	5,835,729					
	議会議員	28	3,660		合計	889	2,635,561	2,965	減債基金	1,830,758	1,849,249					
					ラスバイレス指数			94.6	その他特定目的基金	3,354,289	2,184,900					
	一般会計等の一覧															
	項番	会計名	事業会計の一覧			公営企業(法適)の一覧			公営企業(法非適)の一覧			関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧		
(1)	一般会計	(6)	国民健康保険特別会計		(10)	水道事業会計	(12)	簡易水道事業特別会計	(17)	愛媛県市町総合事務組合(消防補償事業分)	(22)	西条産業情報支援センター				
(2)	ひうち地域振興整備事業特別会計	(7)	介護保険特別会計(介護保険事業勘定)	(11)	病院事業会計	(13)	公共下水道事業特別会計	(18)	愛媛県市町総合事務組合(交通災害事業分)	(23)	西条市体育協会					
(3)	土地開発事業特別会計	(8)	介護保険特別会計(介護サービス事業勘定)			(14)	港湾上屋事業特別会計	(19)	愛媛県地方税滞納整理機構	(24)	西条市土地開発公社					
(4)	住宅新築資金等貸付事業特別会計	(9)	後期高齢者医療保険特別会計			(15)	小松地域交流事業特別会計	(20)	愛媛県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	(25)	佐伯記念育英会					
(5)	畑地かん水事業特別会計					(16)	本谷温泉事業特別会計	(21)	愛媛県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	(26)	ソラヤマいしづち					

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。

※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。

※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。

※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。

※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。

※6：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。

※7：人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)					地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	15,777,320	30.6	15,777,320	61.3	普通税	15,771,470	100.0	208,964	
地方譲与税	371,381	0.7	371,381	1.4	法定普通税	15,771,470	100.0	208,964	
利子割交付金	27,903	0.1	27,903	0.1	市町村民税	5,951,589	37.7	208,964	
配当割交付金	45,791	0.1	45,791	0.2	個人均等割	179,229	1.1	-	
株式等譲渡所得割交付金	38,516	0.1	38,516	0.1	所得割	4,420,737	28.0	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	295,924	1.9	-	
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-	法人税割	1,055,699	6.7	208,964	
地方消費税交付金	1,977,093	3.8	1,977,093	7.7	固定資産税	8,701,131	55.1	-	
ゴルフ場利用税交付金	1,963	0.0	1,963	0.0	うち純固定資産税	8,672,036	55.0	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	382,557	2.4	-	
自動車取得税交付金	96,720	0.2	96,720	0.4	市町村たばこ税	736,193	4.7	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	鉱産税	-	-	-	
地方特別交付金	76,507	0.1	76,507	0.3	特別土地保有税	-	-	-	
地方交付税	8,409,338	16.3	7,255,062	28.2	法定外普通税	-	-	-	
普通交付税	7,255,062	14.1	7,255,062	28.2	目的税	5,850	0.0	-	
特別交付税	1,154,276	2.2	-	-	法定目的税	5,850	0.0	-	
震災復興特別交付税	-	-	-	-	入湯税	5,850	0.0	-	
(一般財源計)	26,822,532	52.1	25,668,256	99.7	事業所税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	13,574	0.0	13,574	0.1	都市計画税	-	-	-	
分担金・負担金	532,853	1.0	-	-	水利地益税等	-	-	-	
使用料	600,534	1.2	34,137	0.1	法定外目的税	-	-	-	
手数料	128,371	0.2	-	-	旧法による税	-	-	-	
国庫支出金	6,516,079	12.7	-	-	合計	15,777,320	100.0	208,964	
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-					
都道府県支出金	3,432,375	6.7	-	-					
財産収入	42,819	0.1	13,789	0.1					
寄附金	235,646	0.5	-	-					
繰入金	2,080,482	4.0	-	-					
繰越金	2,112,712	4.1	-	-					
諸収入	1,160,772	2.3	5,967	0.0					
地方債	7,825,300	15.2	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	1,788,000	3.5	-	-					
歳入合計	51,504,049	100.0	25,735,723	100.0					

区分		平成30年度	平成29年度
徴収率	現・計	99.3	97.0
(%)	年・計	99.3	97.8
		99.3	96.4

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	6,589,942	実質収支	393,970
下水道	1,779,929	再差引収支	215,811
病院	265,337	加入世帯数(世帯)	15,568
上水道	55,541	被保険者数(人)	24,493
観光施設	49,123	被保険者	保険税(料)収入額
国民健康保険	1,035,111	1人当り	国庫支出金
その他	3,404,901		保険給付費
			354

歳入の状況(単位:千円・%)					
目的別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	327,723	0.7	-	327,723	
総務費	6,627,116	13.5	70,462	5,056,639	
民生費	17,113,340	35.0	561,351	8,442,554	
衛生費	2,962,160	6.1	459,498	2,535,484	
労働費	214,369	0.4	-	3,110	
農林水産業費	1,660,472	3.4	677,407	908,408	
商工費	2,001,946	4.1	567,992	899,283	
土木費	6,959,541	14.2	4,287,904	3,263,271	
消防費	1,544,293	3.2	239,649	1,328,987	
教育費	5,053,519	10.3	1,562,922	3,435,466	
災害復旧費	334,941	0.7	-	128,493	
公債費	4,135,527	8.5	-	3,995,170	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	48,934,947	100.0	8,427,185	30,324,588	

性質別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	22,323,344	45.6	14,644,716	14,559,048	52.9
人件費	7,752,248	15.8	7,373,155	7,296,239	26.5
うち職員給	4,701,728	9.6	4,444,274	-	-
扶助費	10,435,569	21.3	3,276,391	3,267,639	11.9
公債費	4,135,527	8.5	3,995,170	3,995,170	14.5
元利償還金	4,135,492	8.5	3,995,135	3,995,135	14.5
内 うち元金	3,728,752	7.6	3,603,467	3,603,467	13.1
訳 うち利子	406,740	0.8	391,668	391,668	1.4
一時借入金利子	35	0.0	35	35	0.0
その他の経費	17,849,477	36.5	13,871,929	10,159,048	36.9
物件費	5,614,840	11.5	4,938,421	4,436,338	16.1
維持補修費	594,213	1.2	445,576	436,193	1.6
補助費等	2,406,238	4.9	1,877,681	897,777	3.3
うち一部事務組合負担金	53,223	0.1	53,223	53,223	0.2
繰入金	6,269,064	12.8	5,419,820	4,331,809	15.7
積立金	2,328,411	4.8	1,128,500	-	-
投資・出資金・貸付金	636,711	1.3	61,931	56,931	0.2
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	8,762,126	17.9	1,807,943	-	-
うち人件費	349,254	0.7	349,161	-	-
普通建設事業費	8,427,185	17.2	1,679,450	-	-
うち補助	3,609,375	7.4	213,917	-	-
うち単独	3,913,559	8.0	1,293,082	-	-
災害復旧事業費	334,941	0.7	128,493	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	48,934,947	100.0	30,324,588	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

平成30年度 愛媛県西条市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	51,383	48,827	2,556	2,462	2,013	56,315	
2 ひうち地域振興整備事業特別会計	197	197	-	-	119	185	
3 土地開発事業特別会計	0	0	-	-	-	-	
4 住宅新築資金等貸付事業特別会計	11	11	-	-	-	-	
5 畑地かん水事業特別会計	24	11	13	13	-	-	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

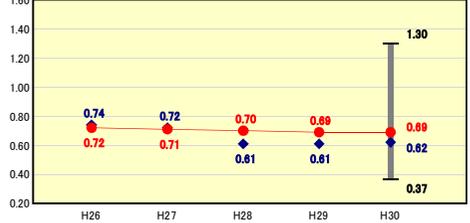
人口	109,681人 (H31.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	108,382人 (H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	510.02km ²	実質公債費比率	6.8%
歳入総額	51,504,049千円	将来負担比率	73.4%
歳出総額	48,934,947千円		
実質収支	2,475,198千円	市町村類型	H26 Ⅲ-1 H27 Ⅲ-1 H28 Ⅲ-1
標準財政規模	27,269,431千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1
地方債現在高	56,499,892千円		



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表示しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表示しない。
 ※(人件費・物件費等の状況)の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

財政力

財政力指数 [0.69]

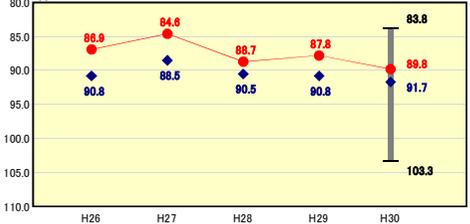


類似団体内順位 7/21 全国平均 0.51 愛媛県平均 0.44

財政力指数の分析欄
 市税収入の増収等により基準財政収入額が増加したものの、社会保障費等により基準財政需要額も増加したため、前年と同じ数値となっており、全国、県内市町及び類似団体の平均を上回っている。
 引き続き産業振興策を通じた市税収入の確保を図るとともに、使用料手数料等の見直しを行うなど、自主財源の確保による財政基盤の強化に努める。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [89.8%]

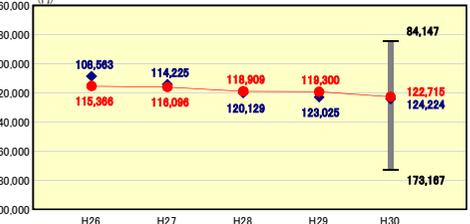


類似団体内順位 5/21 全国平均 93.0 愛媛県平均 88.7

経常収支比率の分析欄
 経常一般財源である市税や地方交付税等が前年に比べ減少したことに加え、歳出面では、人件費、物件費、繰出金等が増加している。このため、経常収支比率は、89.8%となり、前年度と比較し2.0ポイント悪化しているものの、全国、県内市町及び類似団体平均値よりも良い状況である。
 今後も市税などの一般財源の確保や経常経費の圧縮を図り、財政構造の改善に努める。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [122,715円]

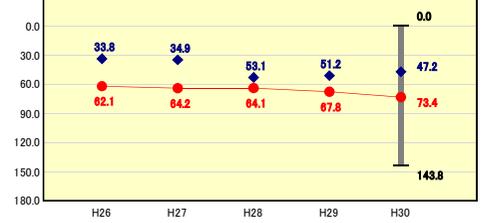


類似団体内順位 14/21 全国平均 132,793 愛媛県平均 130,598

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 退職手当等の増加より人件費が増加したことや、公共施設の管理運営経費の増加などにより物件費が増加したことから、前年度と比較して3,415円の増となった。
 今後は、適切な定員管理に努めるとともに、事務事業の見直しや長期的な視点に立つて公共施設の適正配置・有効活用を図るなど、当該経費の削減に努める。

将来負担の状況

将来負担比率 [73.4%]

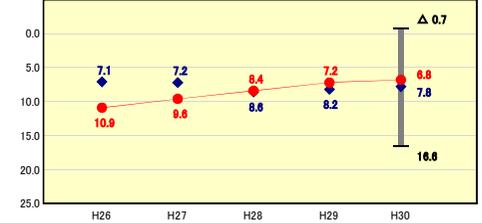


類似団体内順位 14/21 全国平均 28.9 愛媛県平均 35.5

将来負担比率の分析欄
 公営企業債等繰入見込額や退職手当見込額が減少したものの、市債の借入れにより地方債の残高が増加したことから、全体として将来負担額が増加し、前年度と比較すると5.6ポイントの増となっている。
 全国、県内市町、類似団体平均のいずれも上回っているが、今後も大型事業の実施に伴い、合併特例債等の借入が見込まれていることから、事業の実施方法や規模等を精査し経費削減に努め、市債借入額の抑制を図るとともに、事務事業見直しに等より全体的な歳出削減を図るとともに基金残高の確保等に努める。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [6.8%]

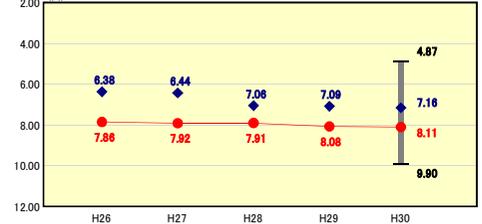


類似団体内順位 11/21 全国平均 6.1 愛媛県平均 7.7

実質公債費比率の分析欄
 元利償還金等が増加しているものの、元利償還金に係る基準財政需要額算入額も増加したことから、昨年度より0.4ポイント改善した。
 この結果、全国平均よりは悪いものの、類似団体平均及び県平均と比較すると良い状況となっている。
 平成23年度以降借入れが増加している合併特例債の償還が本格化することから、今後は公債費の大幅な増加が見込まれるため、財政環境は一層厳しさを増していくものと認識している。

定員管理の状況

人口1,000人当たり職員数 [8.11人]

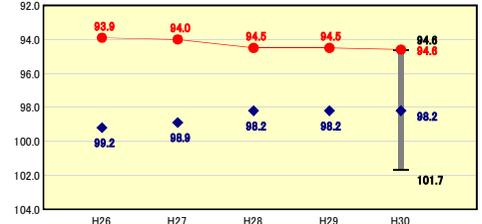


類似団体内順位 17/21 全国平均 7.95 愛媛県平均 7.77

人口1,000人当たり職員数の分析欄
 市町村合併に伴い旧市町に総合支所を設置し、地域の拠点としてその機能を維持していることから、類似団体平均を上回っている。
 指定管理者制度の導入や民間委譲、業務の委託化等に取り組んできたところであるが、今後とも西条市の現状や地域特性を考慮しながら、組織機構、職員配置の再編・見直しを進め、簡素で効率的な執行体制の実現と適切な定員管理に努める。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレス指数 [94.6]



類似団体内順位 1/21 全国市平均 98.9 全国町村平均 98.3

ラスパイレス指数の分析欄
 給与の適正管理により、類似団体の中では最低水準にあるため、引き続き適正管理に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

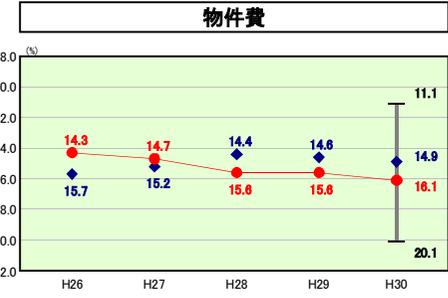
平成30年度

愛媛県西条市

経常収支比率の分析

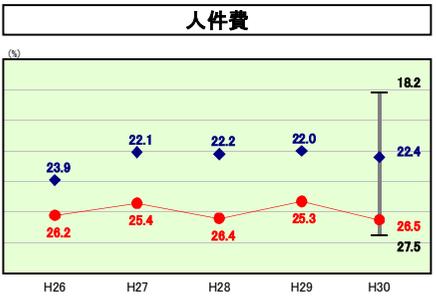
人口	109,681	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	108,382	人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	510.02	km ²	実質公債費比率	6.8	%
歳入総額	51,504,049	千円	将来負担比率	73.4	%
歳出総額	48,934,947	千円	市町村類型	H26 III-1 H27 III-1 H28 III-1	
実質収支	2,475,198	千円	(年度毎)	H29 III-1 H30 III-1	
標準財政規模	27,259,431	千円			
地方債現在高	56,499,892	千円			

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



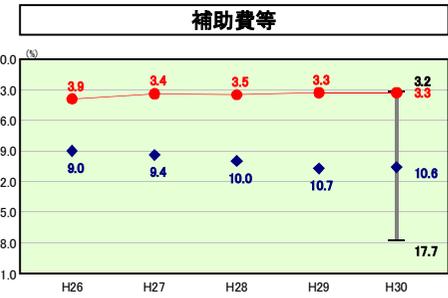
類似団体内順位 15/21 全国平均 14.7 愛媛県平均 14.8

物件費の分析欄
 公共施設の管理運営経費の増加などにより、前年度を0.5ポイント上回る状態となっている。
 類似団体、全国、県内市町平均を上回る状況であり、公共施設の適正配置・有効活用や、事業内容の必要性・効率化の精査、コスト削減等により経費の削減を図る。



類似団体内順位 20/21 全国平均 25.6 愛媛県平均 23.1

人件費の分析欄
 退職手当等が増加したことから人件費は増加しており、指標は全国平均、県内市町及び類似団体平均を上回っている。
 今後も事務事業の見直しや指定管理者制度の導入、公共施設の適正配置等により、適切な定員管理に努め、人件費関係経費全体について削減を推進する必要がある。



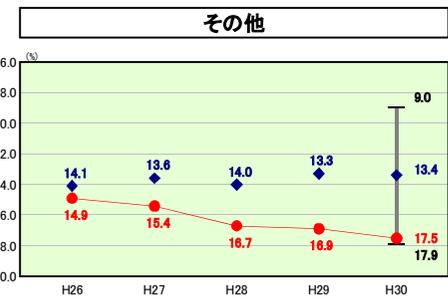
類似団体内順位 2/21 全国平均 10.2 愛媛県平均 7.9

補助費等の分析欄
 個人番号カード等交付事業費や地方バス路線運行対策事業費が増加したものの、病院事業会計負担金等が減少したことから、指数は前年度と同率となっている。
 全国、県内市町及び類似団体平均と比較するとかなり低く推移していることから、引き続き、事業の必要性を精査し、事業の廃止、縮小、統合や補助率の見直し等、効率的な運用に努める。



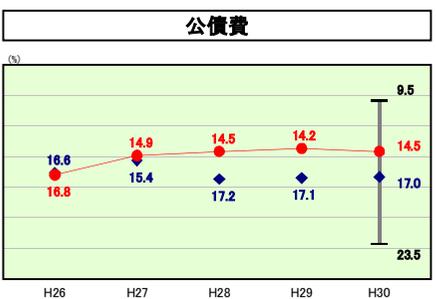
類似団体内順位 10/21 全国平均 12.6 愛媛県平均 11.4

扶助費の分析欄
 県内市町平均は上回ったものの、類似団体及び県内市町平均は下回っている。
 高齢化の進展や社会保障の充実など、今後も増加が見込まれることから、事業効果やサービス水準を検討し、適正化を図っていく。



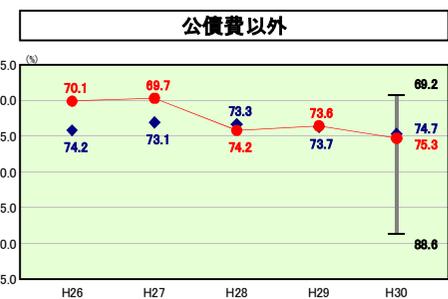
類似団体内順位 20/21 全国平均 13.3 愛媛県平均 14.1

その他の分析欄
 公共下水道事業特別会計への繰出金の増加や、衛生施設の維持補修費の増加等により、昨年度と比較し0.6ポイント上回っており、全国、県内市町及び類似団体平均も上回る状態である。
 特別会計の収支改善による繰出金の抑制や、維持補修費については長期的視点にたった修繕・更新計画を策定するなど、事業費の抑制に努めていく。



類似団体内順位 7/21 全国平均 16.6 愛媛県平均 17.4

公債費の分析欄
 合併特例債に係る償還金の増加等に伴い、昨年度を0.3ポイント上回っているが、全国、県内市町、類似団体平均は下回った状態である。
 今後も大型事業の実施に伴い、合併特例債等の借入が見込まれていることから、事業の実施方法や規模等を精査し経費削減に努め、市債借入額の抑制を図る。



類似団体内順位 14/21 全国平均 76.4 愛媛県平均 71.3

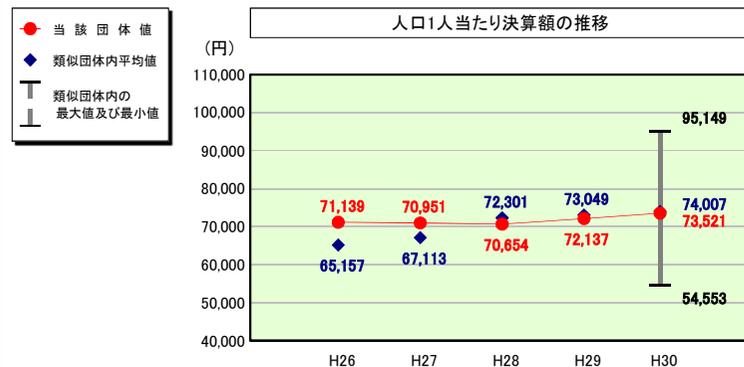
公債費以外の分析欄
 扶助費及び補助費等が減少したものの、人件費や繰出金が増加したことから昨年度と比較し1.7ポイント上回っており、類似団体平均を上回った。
 全国平均を下回っているものの、県内市町平均は上回っていることから、事業の見直しや公共施設の適正管理・有効活用を進め、事業費の削減に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

愛媛県西条市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

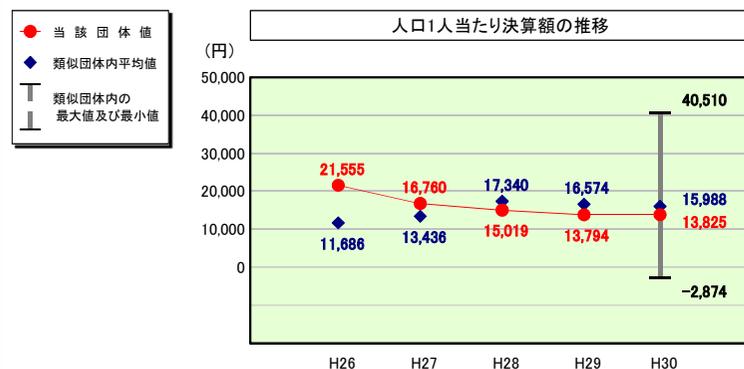
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	7,752,248	70,680	63,339	11.6
賃金(物件費)	549,157	5,007	4,956	1.0
一部事務組合負担金(補助費等)	8,092	74	5,936	▲98.8
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	914	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	256,119	2,335	2,492	▲6.3
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	349,254	3,184	2,050	55.3
▲退職金	▲851,059	▲7,759	▲5,679	36.6
合計	8,063,811	73,521	74,007	▲0.7

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	8.11	7.16	0.95
ラスパイレス指数	94.6	98.2	▲3.6

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

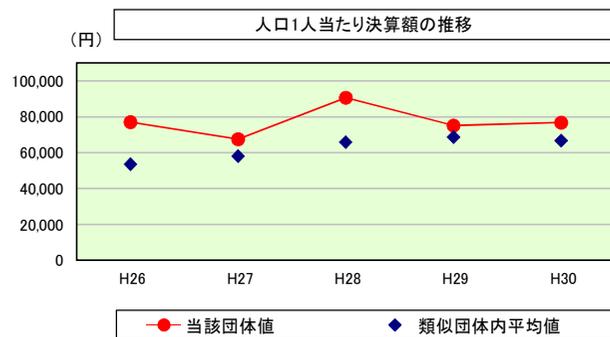


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	4,135,492	37,705	45,288	▲16.7
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	17	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,597,032	14,561	12,800	13.8
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	1,217	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	8,532	78	783	▲90.0
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	2	-
▲特定財源の額	▲113,616	▲1,036	▲4,392	▲76.4
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲4,111,070	▲37,482	▲39,728	▲5.7
合計	1,516,370	13,825	15,988	▲13.5

※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H26	8,715,316	77,155	▲2.6	53,605	5.4	▲8.0
うち単独分	3,393,341	30,040	12.1	28,343	11.7	0.4
H27	7,586,769	67,600	▲12.4	58,051	8.3	▲20.7
うち単独分	3,430,545	30,567	1.8	32,143	13.4	▲11.6
H28	10,128,113	90,738	34.2	65,942	13.6	20.6
うち単独分	4,644,973	41,615	36.1	32,778	2.0	34.1
H29	8,323,359	75,143	▲17.2	68,655	4.1	▲21.3
うち単独分	3,917,623	35,368	▲15.0	32,316	▲1.4	▲13.6
H30	8,427,185	76,834	2.3	66,863	▲2.6	4.9
うち単独分	3,913,559	35,681	0.9	32,770	1.4	▲0.5
過去5年間平均	8,636,148	77,494	0.9	62,623	5.8	▲4.9
うち単独分	3,860,008	34,654	7.2	31,670	5.4	1.8

(5) 市町村性質別歳出決算分析表 (住民一人当たりのコスト)

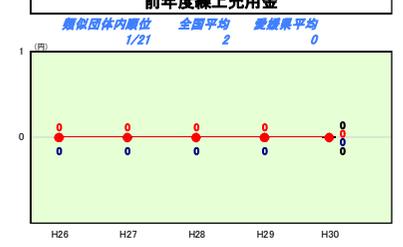
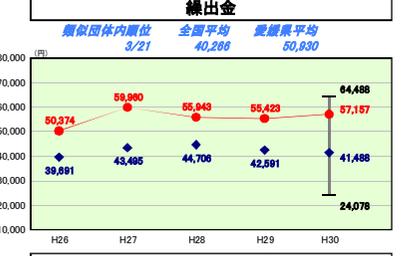
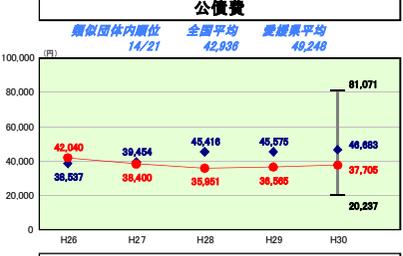
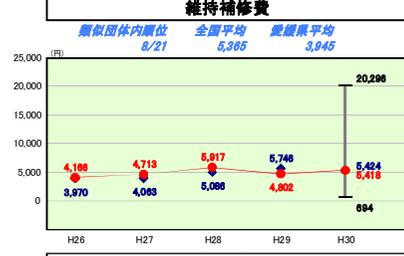
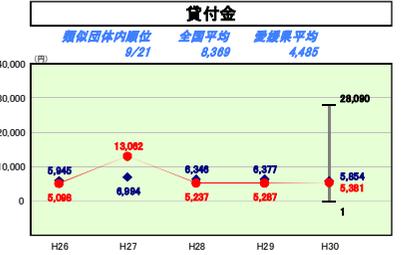
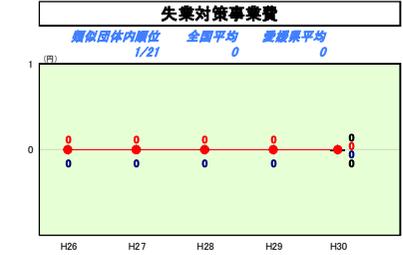
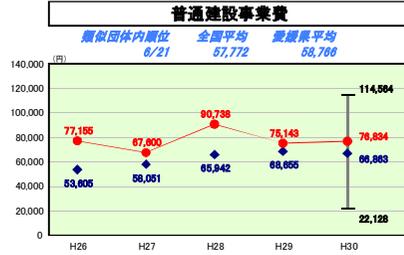
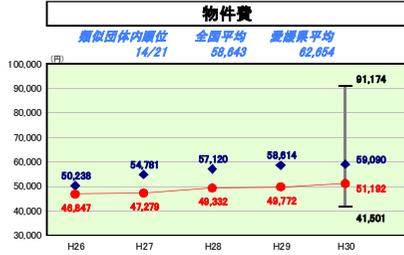
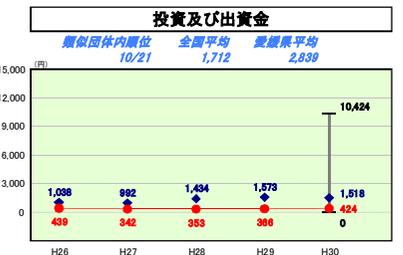
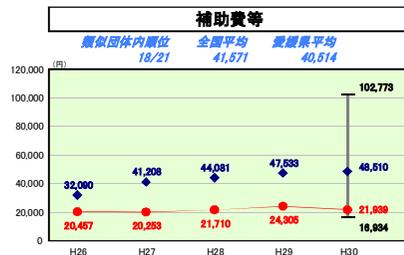
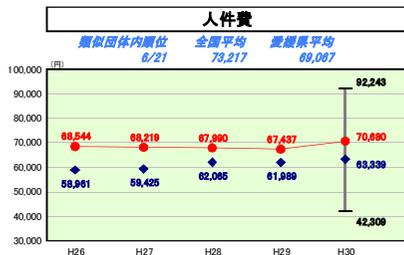
平成30年度

愛媛県西条市

人口	108,681人(831.1.1現在)	実質赤字比率	-	%	
うち日本人	106,382人(831.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%	
面積	510.02km ²	実質公債費比率	6.8	%	
歳入総額	51,504,049千円	実質負担比率	73.4	%	
歳出総額	48,934,947千円	市町村類型	H26 III-1	H27 III-1	H28 III-1
実質収支	2,475,106千円	(年度毎)	H29 III-1	H30 III-1	
標準財政規模	27,250,431千円				
地方債現在高	56,498,882千円				

- 当該団体値
- ◆ 類似団体内平均値
- ⊥ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析
 普通建設事業は、住民一人当たり76,834円であり、平成29年度から1,691円増加している。これは合板・製材生産性強化対策事業や西条北中学校屋内運動場等整備事業の終了による減少があったものの、アウトドア活動拠点施設整備事業や喜多川朔日市線改良事業の増加などによるものであり、類似団体、全国、愛媛県平均を上回っている。
 扶助費は、住民一人当たり95,145円であり、平成29年度から2,216円の減となっている。これは介護給付費・訓練給付費が増加したものの、臨時福祉給付金(経済対策)の終了などによるものであり、類似団体、全国、愛媛県平均を下回っている。
 積立金は、住民一人当たり21,229円であり、平成29年度から4,490円の減となっている。これは財政調整基金積立金の増加などがあったものの、減債基金積立金の減少などによるものであり、類似団体、全国、愛媛県平均を上回っている。
 また、災害復旧費は、住民一人当たり3,054円であり、平成29年度から1,650円の増加となっている。これは平成30年台風24号災などによる影響によるものとなっている。
 今後も費用対効果を十分考慮した事業執行を行い、健全な財政状況の維持に努める。

(6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

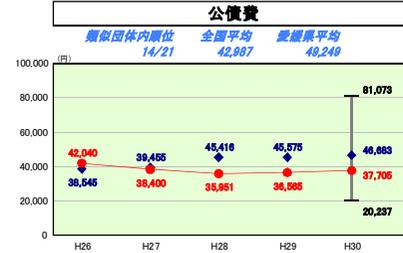
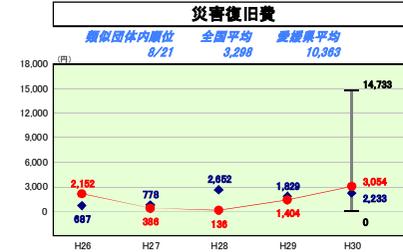
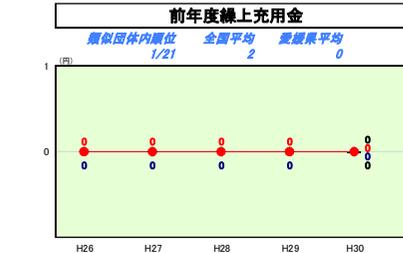
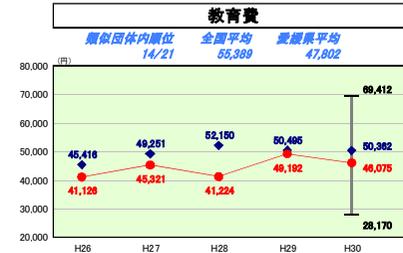
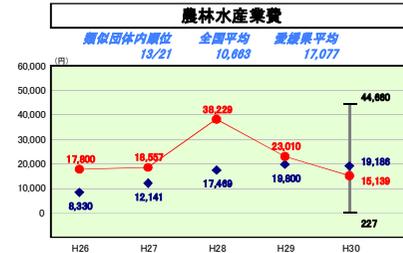
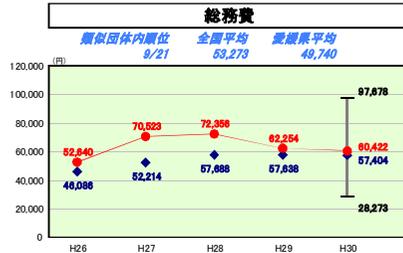
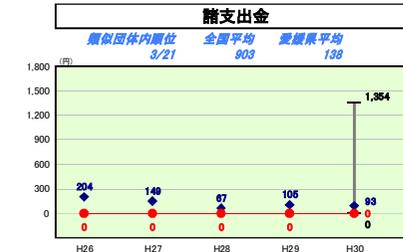
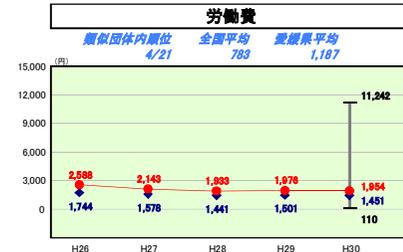
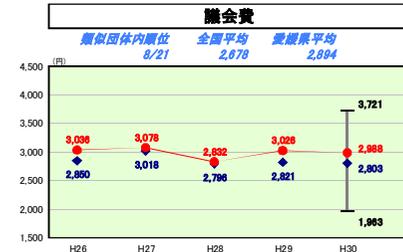
平成30年度

愛媛県西条市

人口	108,681人(831.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	106,382人(831.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%
面積	510.02km ²	実質公債費比率	6.8	%
歳入総額	51,604,049千円	実質負担比率	73.4	%
歳出総額	48,934,947千円	市町村類型	H26 III-1 H27 III-1 H28 III-1	
実質収支	2,475,108千円	(年度毎)	H29 III-1 H30 III-1	
標準財政規模	27,250,431千円			
地方債現在高	56,498,882千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

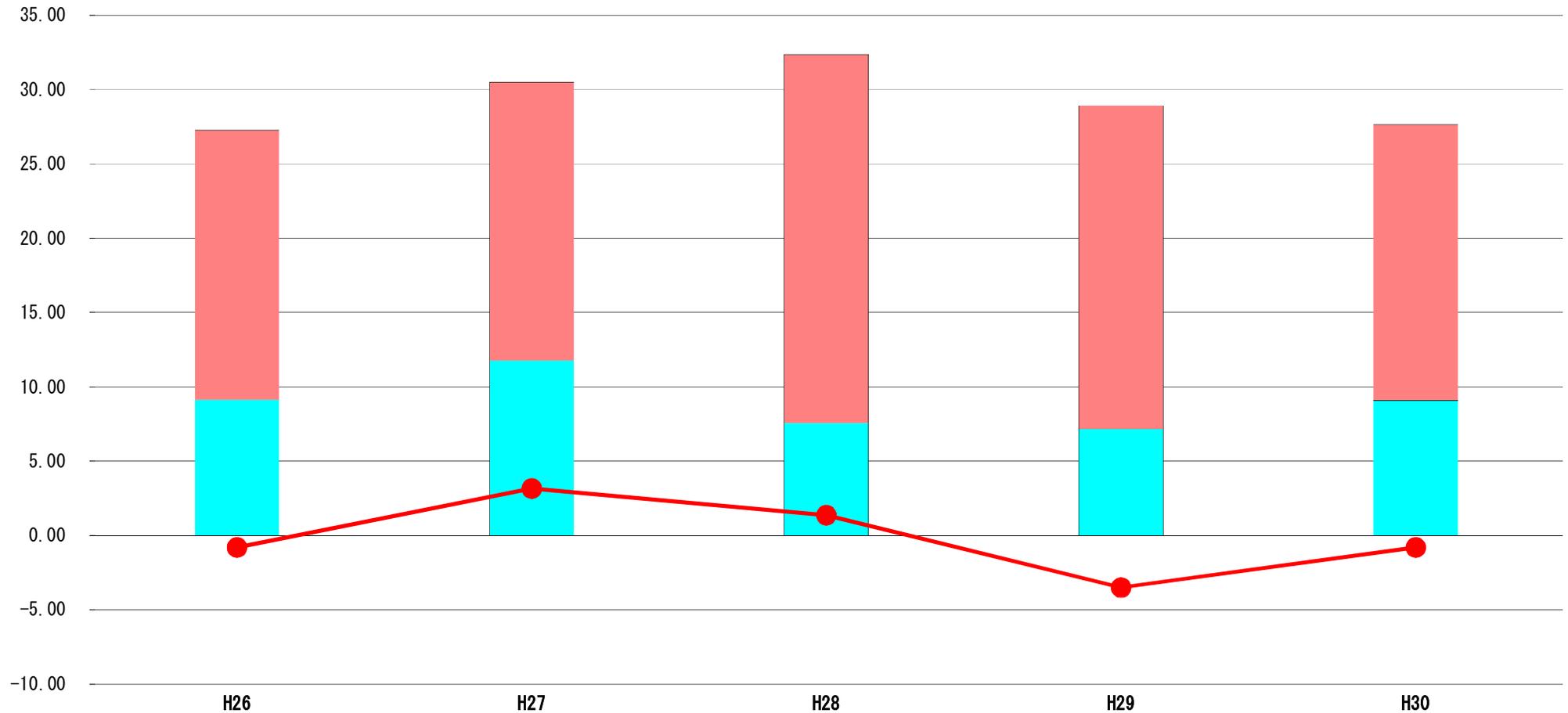
民生費は増加傾向にあるものの、住民一人当たり156,028円となっており、平成29年度から571円の減となっている。主な要因としては介護給付費・訓練等給付費などが増加したものの、臨時福祉給付金支給事業(経済対策分)が終了したことによるものである。金額は類似団体、愛媛県平均、全国平均とも下回っている。
 商工費は住民一人当たり18,252円となっており、平成29年度から8,353円の増となっている。主な要因としてはアウトドア活動拠点施設整備事業や四国西部エリア戦略型観光サービス創出事業を新たに行ったことなどがある。
 農林水産業費は住民一人当たり15,139円であり平成29年度から7,871円の減となっている。主な要因としては合板・製材生産性強化対策事業が終了したことによる。
 土木費は住民一人当たり63,453円となっており、平成29年度から2,278円の増となっている。主な要因としては、喜多川期日市線改良事業や楠浜北条線道路改良事業、(仮称)新泉町団地整備事業、古川玉津橋線道路改良事業などが増額となったためである。類似団体、愛媛県平均、全国平均を上回る状況となっている。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成30年度

愛媛県西条市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H26	H27	H28	H29	H30
財政調整基金残高		18.15	18.73	24.78	21.76	18.56
実質収支額		9.13	11.78	7.57	7.16	9.08
実質単年度収支		▲ 0.80	3.17	1.38	▲ 3.50	▲ 0.81

分析欄

財政調整基金について10億7千万円を積み立てたが、一般会計の財源不足に対応するため18億5千万円を取り崩したことから、実質単年度収支は2億2千万円の赤字となっている。実質収支比率は、9.08%であり、望ましいとされる3~5%を上回る状況となっている。

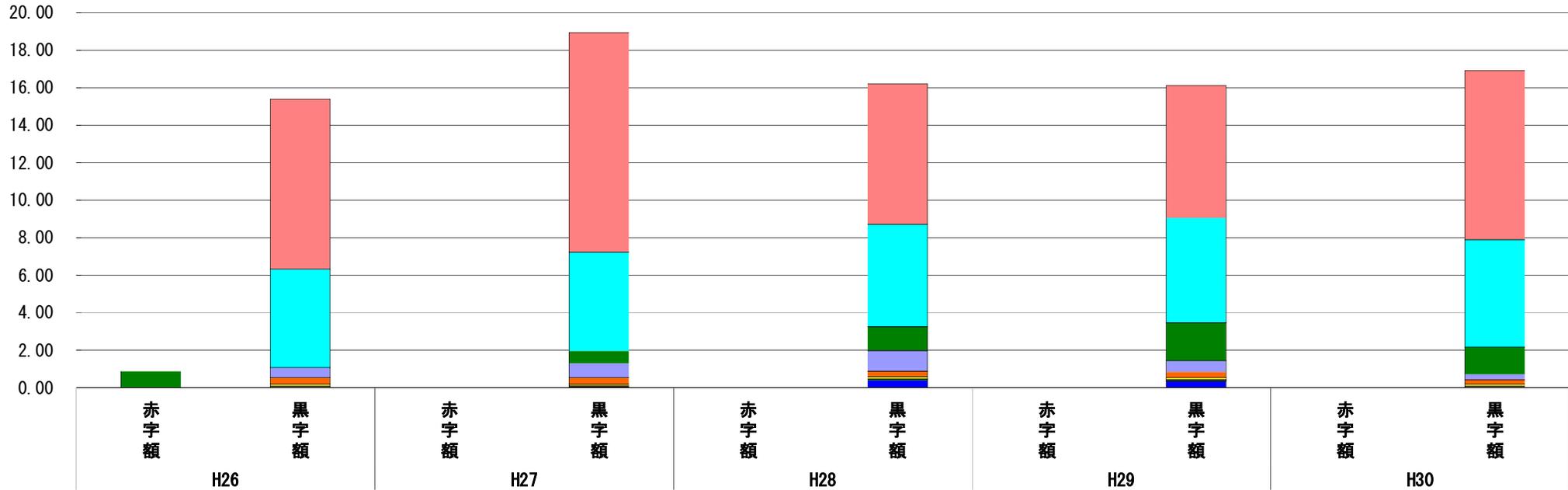
今後は、市税収入の大幅な伸びも期待できないことから、財政調整基金の減少も考えられ、慎重な取崩しとさらなる基金の積立に留意する必要がある。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成30年度

愛媛県西条市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H26	H27	H28	H29	H30
一般会計		9.08	11.71	7.49	7.07	9.03
水道事業会計		5.26	5.27	5.46	5.58	5.74
国民健康保険特別会計		▲ 0.86	0.67	1.29	2.04	1.44
介護保険特別会計（介護保険事業勘定）		0.54	0.77	1.08	0.60	0.28
介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）		0.34	0.33	0.30	0.30	0.25
後期高齢者医療保険特別会計		0.10	0.09	0.10	0.10	0.10
病院事業会計		0.04	0.04	0.05	0.04	0.04
畑地かん水事業特別会計		0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.02	0.40	0.35	0.00

分析欄

全会計において黒字決算又は歳入歳出同額となっている。今後とも、健全で安定した財政運営に努める。

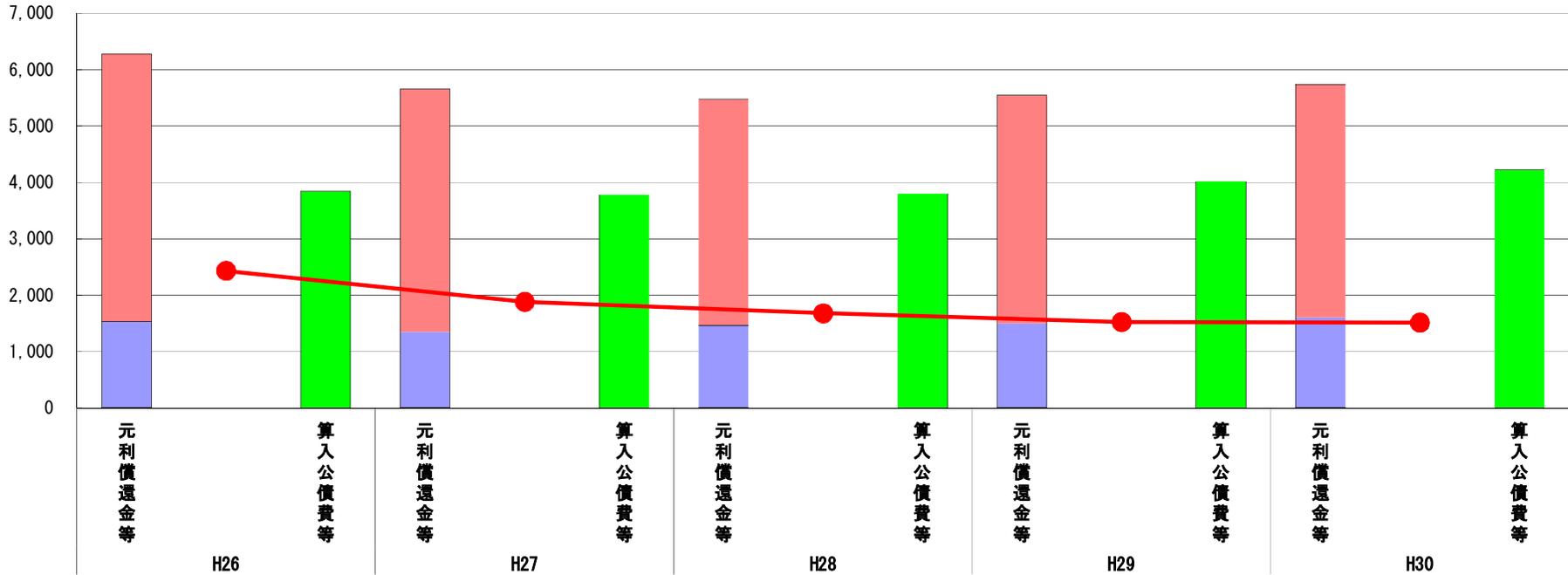
※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

愛媛県西条市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等 (A)	元利償還金		4,749	4,310	4,013	4,050	4,135
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		1,523	1,341	1,455	1,490	1,597
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		9	9	9	9	9
	一時借入金の利息		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		3,847	3,779	3,800	4,021	4,225
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		2,434	1,881	1,677	1,528	1,516

分析欄

元利償還金等が192百万円増加しているものの、改善要素である算入公債費等が204百万円増加したことから、実質公債費比率の分子額、実質公債費比率ともに改善している。

今後は平成23年度以降借入れが増加している合併特例債の償還が本格化することから公債費の大幅な増加が見込まれるため、財政環境は一層厳しさを増していくものと考えられる。

※1 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
(参考)

※2 減債基金積立状況等		年度	H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
減債基金積立状況等	減債基金残高(注)						
	減債基金積立相当額						

分析欄

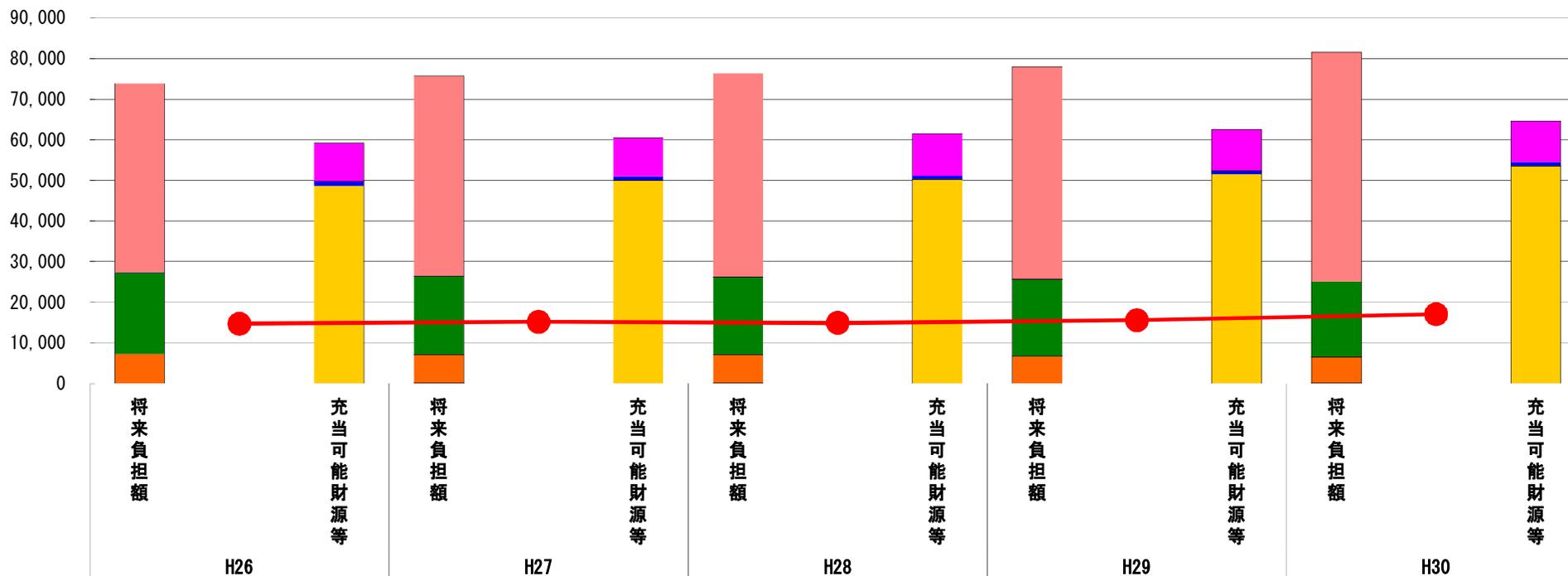
(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

愛媛県西条市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		46,589	49,338	50,154	52,403	56,500
	債務負担行為に基づく支出予定額		30	23	15	8	-
	公営企業債等繰入見込額		20,079	19,257	19,153	18,899	18,596
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		7,185	7,069	7,040	6,725	6,491
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	12	17	-	21
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		9,511	9,546	10,348	10,114	10,036
	充当可能特定歳入		1,040	936	873	860	974
	基準財政需要額算入見込額		48,640	50,039	50,272	51,503	53,591
(A) - (B)	将来負担比率の分子		14,693	15,177	14,885	15,557	17,007

分析欄

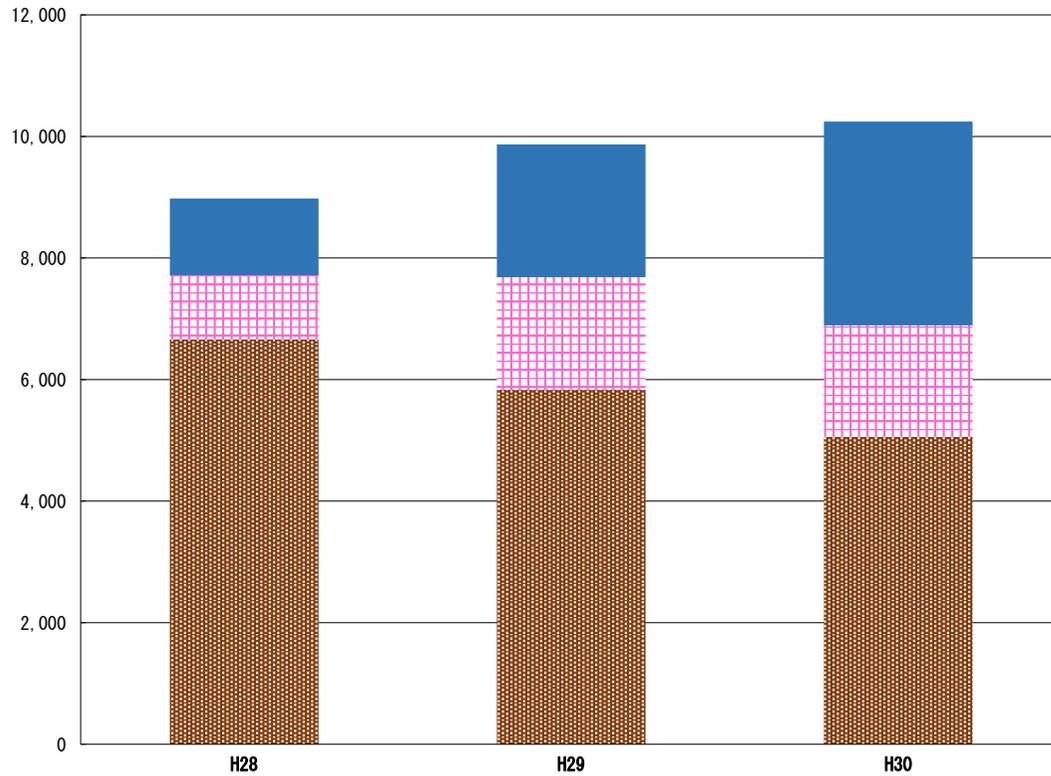
建設事業実施による合併特例債や、地方交付税の代替財源である臨時財政対策債の借入により地方債残高が増加している。臨時財政対策債は、改善要素である基準財政需要額算入見込額に全額算入されるものの、合併特例債の算入率は70%であり、多額の借入は将来負担比率の悪化要因となるため、注意する必要がある。また、退職手当負担等見込額は、職員の新陳代謝等により減少傾向にある。

今後も道前クリーンセンター整備事業等の大型事業により地方債現在高の増嵩が見込まれることから、財政環境は一層厳しさを増していくものと考えられる。

※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	H28	H29	H30
財政調整基金		6,659	5,836	5,060
減債基金		1,057	1,849	1,831
その他特定目的基金		1,263	2,185	3,354
合併振興基金		—	1,170	2,342
福祉基金		500	447	423
ひうち緑地等管理基金		304	273	243
水産資源育成基金		144	141	138
漁業振興対策基金		68	68	68
基金残高合計		8,979	9,870	10,245

平成30年度

愛媛県西条市

基金全体

(増減理由)
 財政調整基金及び減債基金ともに残高が減少しており、2つを合わせた基金残高は約6億8千万円と前年同比で7億9千万円の減となっている。また、福祉基金、ひうち緑地等管理基金等は、それぞれ事業実施に伴い基金を取り崩したことから基金残高は減少している。一方、合併振興基金は1億7千万円を積立てた。この結果、基金全体では3億7千万円の増となった。

(今後の方針)

合併振興基金を平成29年度から令和元年度までの3カ年で積立限度額の3億5千万円で積立予定としていることから、この間は増加しているが、今後、特定目的基金については、それぞれの設置目的に応じた各種事業の財源として活用を図っていくことから、基金の総額としては、目的の達成とともに減少する見通しとなっている。

財政調整基金

(増減理由)
 前年度繰越金の1/2以上となる1億7千万円を積立てたものの、一般会計の財源不足に対応するため1億8千万円を取り崩したことから、基金残高は7億8千万円の減となっている。

(今後の方針)

年度間の財源不足の備えや、災害により生じる予期せぬ支出・減収に充てるための財源ともなることから、今後も厳しい財政運営が見込まれるものの、一定額の確保を図っていきたい。

減債基金

(増減理由)
 庁舎整備に係る元利償還金に充当したことによる減。

(今後の方針)

庁舎整備に係る元利償還金に充当することとし、また経済事情の変動等により一般会計の財源が不足する場合は、元利償還金に充当するための取崩を行っていく。

その他特定目的基金

(基金の使途)
 ・合併振興基金：本市における市民の連帯の強化及び地域振興に要する経費。
 ・福祉基金：高齢者等の社会参加の促進及び、保健福祉の増進を図る事業に要する経費。
 ・ひうち緑地等管理基金：東部臨海土地造成事業により施行した緑地等の管理に要する経費。
 ・水産資源育成基金：東部臨海土地造成事業に伴う水産資源育成事業に要する経費。
 ・漁業振興対策基金：西条地区(旧西條市)の漁業振興対策事業に要する経費。

(増減理由)

・合併振興基金：合併特例債を主な財源とした積立による増。
 ・福祉基金：シルバーカー購入費補助金、タクシー利用助成などの社会福祉基金事業実施による減。
 ・ひうち緑地等管理基金：ひうち地域の樹木管理、除草清掃等委託実施による減。
 ・水産資源育成基金：ひうち地域で放流するクルマエビ等種苗購入費等による減。

(今後の方針)

・合併振興基金：平成29年度から令和元年度までの3カ年で積立限度額の3億5千万円を積立予定。今後は、積立の財源として借り入れた合併特例債の償還が完了した額に限り、活用が可能とされていることから、市民の連帯の強化及び地域振興に要する経費に充当していく見込み。
 ・福祉基金：福祉基金事業の財源とするため毎年度取崩予定。
 ・ひうち緑地等管理基金：ひうち地域の緑地管理の財源とするため毎年度取崩予定。
 ・水産資源育成基金：ひうち地域で実施する漁業振興対策事業の財源とするため毎年度取崩予定。

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

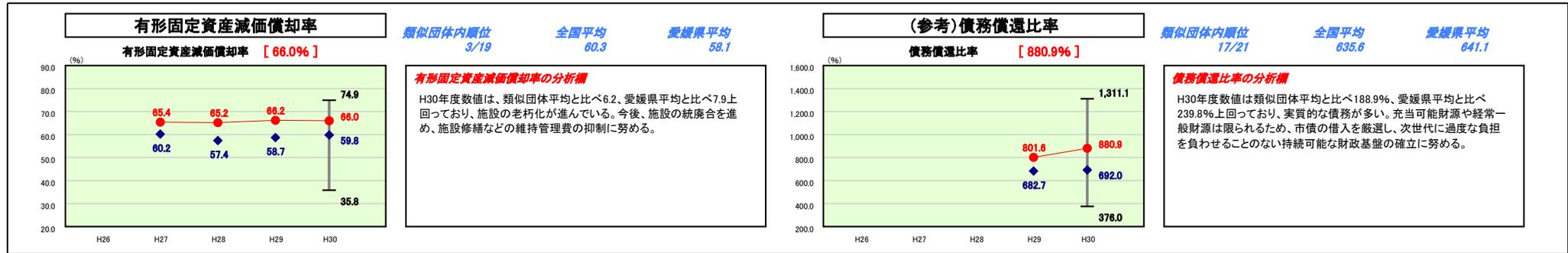
平成30年度

愛媛県西条市

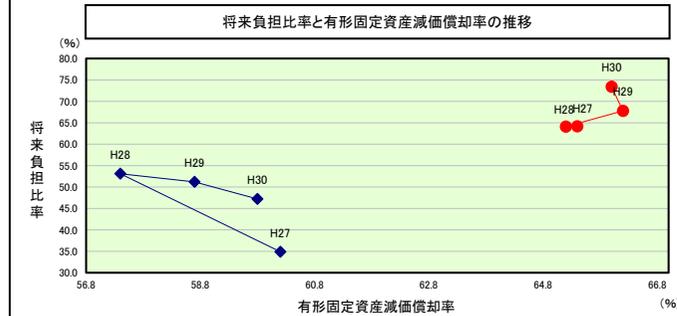
人口	109,681人 (H31.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	108,382人 (H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	510.02km ²	実質公債費比率	6.8%
歳入総額	51,504,049千円	将来負担比率	73.4%
歳出総額	48,934,947千円	市町村類型	H26 Ⅲ-1 H27 Ⅲ-1 H28 Ⅲ-1
実質収支	2,475,198千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1
標準財政規模	27,259,431千円		
地方債現在高	56,499,892千円		



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

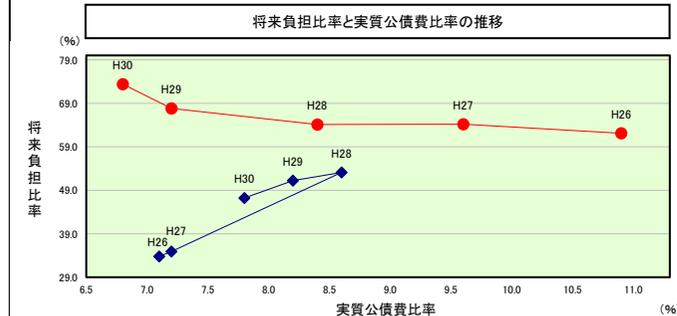


分析欄
H27～H30年度数値は、類似団体平均と比べ、将来負担比率、有形固定資産減価償却率ともに高い水準となっており、他の類似団体と比べて老朽化した施設が多く、将来負担額(地方債残高等)が多くなっている。将来負担比率については、350%が早期健全化基準であるため、大幅に下回ってはいるものの、H28年度から増加傾向であり、今後は両指標ともに改善させる健全な財政運営に努める。

(参考)

		H26	H27	H28	H29	H30
当該団体値	将来負担比率		64.2	64.1	67.8	73.4
	有形固定資産減価償却率		65.4	65.2	66.2	66.0
類似団体内平均値	将来負担比率		34.9	53.1	51.2	47.2
	有形固定資産減価償却率		60.2	57.4	58.7	59.8

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄
本市の実質公債費比率は、他の類似団体平均と比較するとH28年度から下回ってはいるものの、将来負担比率は上回っている。早期健全化基準は、それぞれ実質公債費比率が25%以上、将来負担比率が350%以上であるから、本市の指標は大幅に下回ってはいるものの将来負担比率は、H28年度以降増加しているため引き続き指標の動向に留意した財政運営に努める。

(参考)

		H26	H27	H28	H29	H30
当該団体値	将来負担比率	62.1	64.2	64.1	67.8	73.4
	実質公債費比率	10.9	9.6	8.4	7.2	6.8
類似団体内平均値	将来負担比率	33.8	34.9	53.1	51.2	47.2
	実質公債費比率	7.1	7.2	8.6	8.2	7.8

(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

平成30年度

愛媛県西条市

人口	109,681人(831.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	108,382人(831.1.1現在)	道創実質赤字比率	-%
面積	510.02km ²	実質公債費比率	6.8%
歳入総額	51,504,049千円	将来負担比率	73.4%
歳出総額	48,934,947千円	市町村類型	H26 Ⅲ-1 H27 Ⅲ-1 H28 Ⅲ-1
実質収支	2,475,198千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1
標準財政規模	27,259,431千円		
地方債残高	55,489,592千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

【道路】
有形固定資産減価償却率



【道路】
一人当たり延長



【認定こども園・幼稚園・保育所】
有形固定資産減価償却率



【認定こども園・幼稚園・保育所】
一人当たり面積



【橋りょう・トンネル】
有形固定資産減価償却率



【橋りょう・トンネル】
一人当たり有形固定資産(償却資産)額



【学校施設】
有形固定資産減価償却率



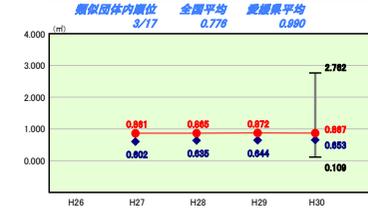
【学校施設】
一人当たり面積



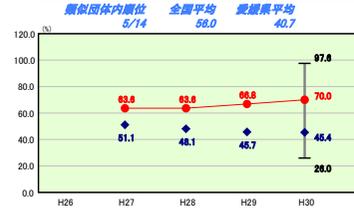
【公営住宅】
有形固定資産減価償却率



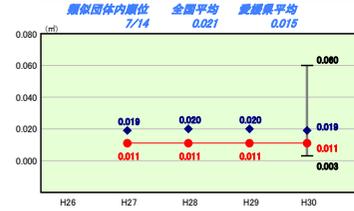
【公営住宅】
一人当たり面積



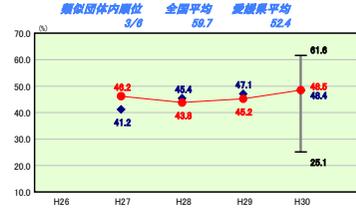
【児童館】
有形固定資産減価償却率



【児童館】
一人当たり面積



【港湾・漁港】
有形固定資産減価償却率



【港湾・漁港】
一人当たり有形固定資産(償却資産)額



【公民館】
有形固定資産減価償却率



【公民館】
一人当たり面積



施設情報の分析値

有形固定資産減価償却率については、本市は橋りょう・トンネルを除いてほとんどの施設において、類似団体平均より同程度、もしくは高い数値を示していることから、老朽化の進んだ施設が多い。
 また、公営住宅、認定こども園・幼稚園・保育園、公民館は、一人当たりの面積が類似団体平均より大きく、それらについては維持管理費が他の類似団体よりも多額になることが予想されることから、効率的な施設の管理運営が必要である。

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

平成30年度

愛媛県西条市

人口	109,681人(831.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	108,382人(831.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
世帯数	510.02千戸	実質公債費比率	6.8%
歳入総額	51,504,049千円	将来負担比率	73.4%
歳出総額	48,934,947千円	市町村類型	H26 Ⅲ-1 H27 Ⅲ-1 H28 Ⅲ-1
実収支	2,475,198千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1
標準財政規模	27,259,431千円		
地方債残高	56,499,592千円		

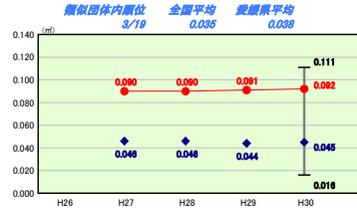


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

【図書館】
有形固定資産減価償却率



【図書館】
一人当たり面積



【一般廃棄物処理施設】
有形固定資産減価償却率



【一般廃棄物処理施設】
一人当たり有形固定資産(償却資産)額



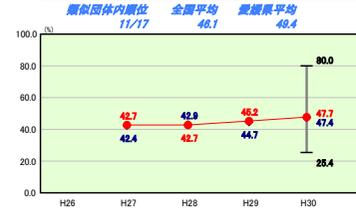
【体育館・プール】
有形固定資産減価償却率



【体育館・プール】
一人当たり面積



【保健センター・保健所】
有形固定資産減価償却率



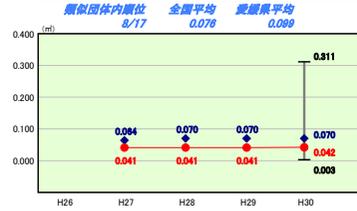
【保健センター・保健所】
一人当たり面積



【福祉施設】
有形固定資産減価償却率



【福祉施設】
一人当たり面積



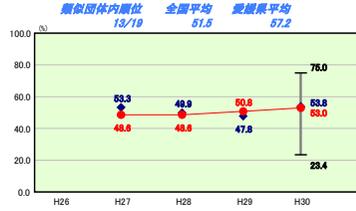
【消防施設】
有形固定資産減価償却率



【消防施設】
一人当たり面積



【市民会館】
有形固定資産減価償却率



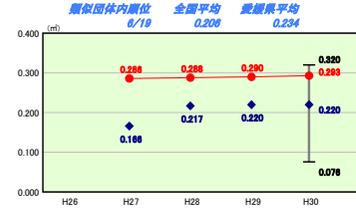
【市民会館】
一人当たり面積



【庁舎】
有形固定資産減価償却率



【庁舎】
一人当たり面積



施設情報の分析値

庁舎、消防施設、図書館は、整備から10年程度しか経過していない施設の割合が高いことから、類似団体と比較して有形固定資産減価償却率が低い水準となっている。
 一方、一般廃棄物処理施設、福祉施設は、整備から30年以上経過する施設の割合が高いことから、類似団体と比較して高い水準である。
 また図書館、保健センター、庁舎については、一人当たりの面積が類似団体に比べて著しく高くなっており、維持管理費の負担額が他団体よりも高くなることが予想される。